

# 佐賀城下は どうやってできた?



元々は海 → 陸地化 → 集落 → 中世の町 →  
江戸時代の城下 → 現在の佐賀市

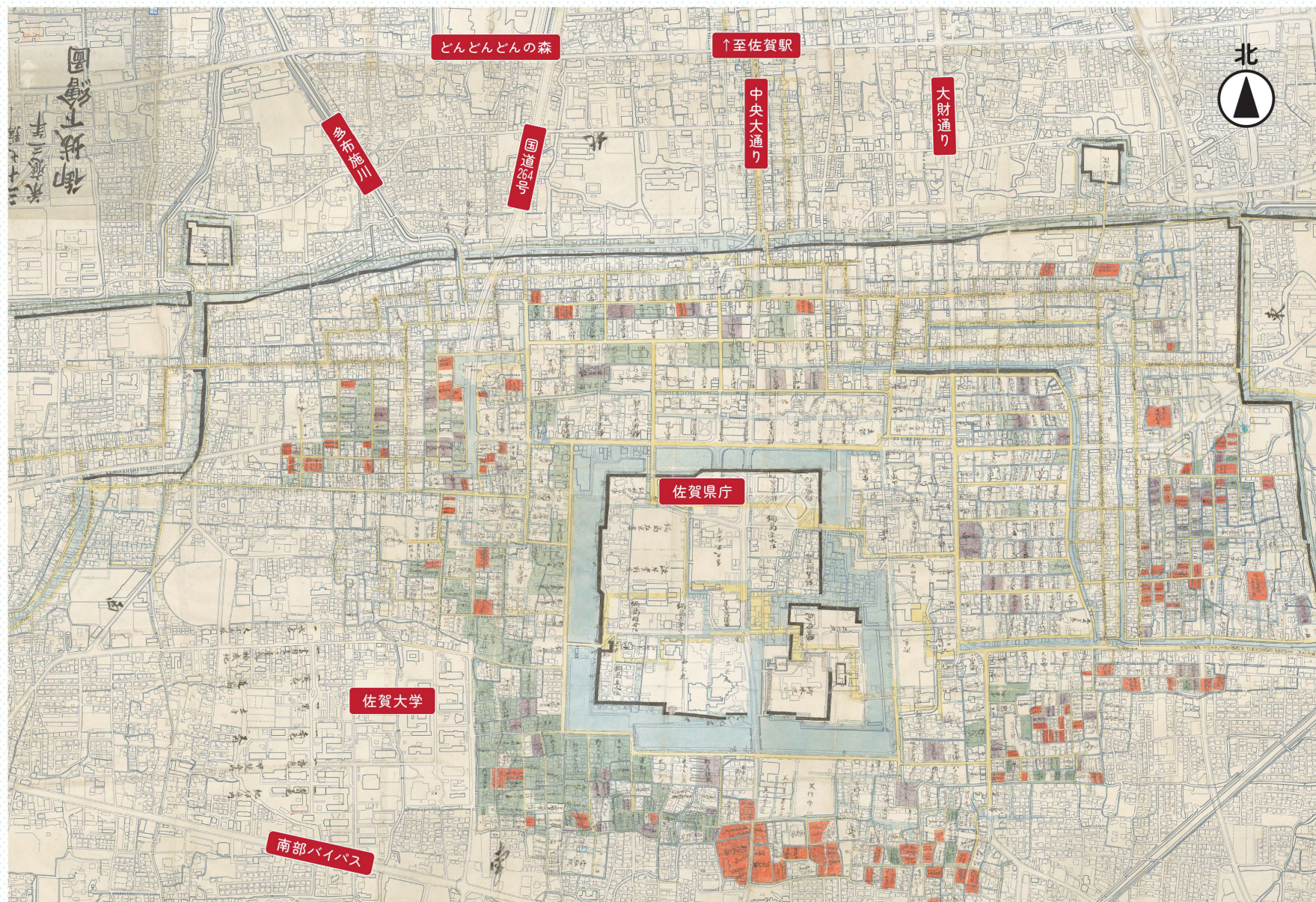
佐

賀のまちは、元々は海でした。それが、海から泥土、川から土砂が運ばれて次第に陸地化してできたのが佐賀平野です。そしてこの土地に人が住み、産業が営まれたことが、私たちの佐賀市の発展につながりました。

人々が田畑を協働で開墾するようになると、各地に小さな集落が発達します。中でも中世の時代に田畑を管理する地頭として成長した龍造寺氏は、戦国時代に村中城や水ヶ江城を拠点に、周囲に家臣の屋敷や寺院のある小さな城下町を作りました。



さらにそれを拡張する形で、江戸時代のはじめに鍋島氏が道路や水路網、武家屋敷などを整備してできたのが佐賀城と佐賀城下です。江戸時代のおよそ260年間、佐賀城下の形はほぼ変わらず維持され、これを基盤として明治時代以降の150年間で四方に拡張したのが現在の佐賀市です。



承応佐賀城廻之絵図(現代地図との重ね図) 承応3年(1654)  
鍋島報効会(徴古館)所蔵